

看護基礎教育における性に関する学習 —セクシュアリティの視点から臨地実習における 陰部洗浄の教育方法を分析する—

水野 昌子* 福田 博美**

*公立瀬戸旭看護専門学校

**養護教育講座（看護学）

A Study Concerning Sexuality in the Basic Nursing Education —An Analysis of Educational Method The Private Parts Washing in Clinical Nursing Practicum from Sexuality Viewpoint—

Masako MIZUNO* and Hiromi FUKUDA**

**Seto-Asahi Nursing College, Seto 489-0058, Japan*

***Department of School Health Sciences (Nursing), Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan*

I. はじめに

看護場面においては、セクシュアリティに関する問題を患者や看護師および看護学生が多く抱えており、とくに清潔の援助の1つである陰部洗浄時に顕著に現れる¹⁾。しかし、テキスト²⁻¹²⁾の中において、陰部洗浄は、清潔の技術として取り上げられており、患者のセクシュアリティを尊重するといった視点で述べられている箇所はほとんどない。また、陰部洗浄時の学生への指導方法が検討されたものもなかった。そこで、本研究では、看護基礎教育課程において陰部洗浄を教授する際にどのように教育が実施されているのかを明らかにした。

II. 方法

1. 研究時期および対象

平成20年9月～10月に、質問紙による郵送調査を行った。対象は、日本看護学校協議会に所属する看護師養成所349校における陰部洗浄の授業担当者1名とした。

2. 研究方法

質問紙は、臨地実習の状況（陰部洗浄を体験する時期）、教員や臨床指導者の指導方法とセクシュアリティに配慮した陰部洗浄についての質問項目とし、卒業学生へのインタビュー結果¹³⁾を基に作成した。質問項目の妥当性を検討するため、陰部洗浄の指導の経験

のある看護教員にプレテストを実施し、内容の修正をおこなった。自由記述の分析は、記述されている内容を読み取り、意味ごとに分類した。

3. 用語の定義

「セクシュアリティ」という用語がまだ流動的であることを認識した上で、「セクシュアリティ」という概念は、人の中核的な特質の1つで、生物学的な性と生殖に関するもののみではなく、人間関係における社会的、心理的側面やその背景の生育環境を含めたものとする。本研究における陰部洗浄時のセクシュアリティは、水野らの研究¹⁴⁾に基づき、生物学的な性として性反応(勃起)、社会的、心理的側面として患者および学生の羞恥心にも着目した。

4. 研究に関する倫理的配慮

研究に関する倫理的配慮は、国際看護師協会の看護研究のための倫理指針に基づいて行った。具体的には、研究参加による危害を排除し、プライバシーを厳守し、研究公表には個人が特定されない旨を研究開始時に対象に説明し了解を得た。さらに、データは、個を特定できない形で処理した。

III. 結果

アンケートの回収は142名（回収率40.7%）であった。2年課程と未記入が多い回答を除いた120名を分析対象とした。

1. 教員の属性

今回の調査に回答した教員は、全員女性であった。年齢は、30代29名(24.2%)、40代65名(54.1%)、50代23名(19.2%)、60代3名(2.5%)であった。

教員の経験年数は、平均9.4±6.9年で一番短い教員で1年未満、最長34年であった。教員経験年数が3年以下の者が31名(25.8%)、4年以上が89名(74.2%)であった。

女性患者の陰部洗浄の経験があったのは、118名(98.3%)、男性患者の陰部洗浄経験は114名(95.0%)であった。

2. 臨地実習

1) 臨地実習の状況

陰部洗浄の実施を組み入れる一番最初の臨地実習は、基礎看護学実習108校(90.0%)、成人看護学実習11校(9.2%)、老年看護学実習1校(0.8%)であった。

実習時期は、1年後期が最も多く75校(62.9%)、次いで2年後期24校(20.2%)、2年前期12校(10.1%)、1年前期と3年前期4校(3.4%)であった。陰部洗浄の実施の時期は1年次、領域では基礎看護学実習において多くの学校で計画されていた。

2) 教員や臨床指導者の指導方法

教員の経験年数を3年以下と4年以上に分け¹⁵⁾、臨地実習における指導方法を「いつもする」「たびたびする」「時々する」「あまりしない」「ほとんどしない」の5段階で分析し、表1に示した。

初回の陰部洗浄は、「教員か指導者の行う陰部洗浄の見学をする」は「いつもする」が最も多く、「たびたびする」まで入れると8割以上であった。また、3年以下は「いつもする」が6割に対し、4年以上のほうが7割と多かった。しかし、「指導者以外の看護師が行うのを見学」は「たびたびする」が最も多く、「いつもする」と「たびたびする」を合わせると約6割となり3年

表1 臨地での指導方法

| | | いつもする | たびたびする | 時々する | あまりしない | ほとんどしない |
|--------------------------------------|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 初回、学生は指導者(臨床指導者または教員)の行う陰部洗浄の見学する | 3年以下 n=31 | 18 (58.2%) | 7 (22.6%) | 2 (6.4%) | 2 (6.4%) | 2 (6.4%) |
| | 4年以上 n=87 | 63 (72.5%) | 15 (17.3%) | 7 (8.0%) | 1 (1.1%) | 1 (1.1%) |
| 初回、学生は指導者以外の看護師が行う陰部洗浄の見学する | 3年以下 n=31 | 9 (29.0%) | 10 (32.3%) | 4 (12.9%) | 5 (16.1%) | 3 (9.7%) |
| | 4年以上 n=87 | 24 (27.6%) | 26 (29.9%) | 24 (27.6%) | 5 (5.7%) | 8 (9.2%) |
| 初回、学生は指導者の行う陰部洗浄を一部介助する | 3年以下 n=30 | 0 (0.0%) | 8 (26.7%) | 11 (36.6%) | 5 (16.7%) | 6 (20.0%) |
| | 4年以上 n=85 | 17 (20.0%) | 10 (11.8%) | 21 (24.7%) | 21 (24.7%) | 16 (18.8%) |
| 2回目以降、学生は指導者と共に陰部洗浄を実施する | 3年以下 n=30 | 13 (43.3%) | 13 (43.3%) | 4 (13.4%) | 0 (0.0%) | 0 (0.0%) |
| | 4年以上 n=88 | 36 (41.0%) | 34 (38.6%) | 14 (15.9%) | 3 (3.4%) | 1 (1.1%) |
| 2回目以降、学生は指導者以外(スタッフ看護師)と共に陰部洗浄を実施する | 3年以下 n=31 | 4 (12.9%) | 12 (38.7%) | 7 (22.6%) | 4 (12.9%) | 4 (12.9%) |
| | 4年以上 n=87 | 12 (13.6%) | 34 (39.0%) | 27 (28.8%) | 7 (9.3%) | 7 (9.3%) |
| 2回目以降、女子学生1人で陰部洗浄を実施する | 3年以下 n=31 | 0 (0.0%) | 1 (3.2%) | 4 (12.9%) | 7 (22.6%) | 19 (61.3%) |
| | 4年以上 n=86 | 2 (2.3%) | 8 (9.3%) | 18 (20.9%) | 14 (16.3%) | 44 (51.2%) |
| 2回目以降、男子学生1人で陰部洗浄を実施する | 3年以下 n=30 | 0 (0.0%) | 1 (3.3%) | 4 (13.3%) | 4 (13.3%) | 21 (70.1%) |
| | 4年以上 n=83 | 0 (0.0%) | 4 (4.8%) | 18 (21.7%) | 11 (13.3%) | 50 (60.2%) |
| 陰部洗浄を実施する前に男性・女性患者への実施が初めてであるかを確認する | 3年以下 n=31 | 17 (54.7%) | 7 (22.6%) | 2 (6.5%) | 3 (9.7%) | 2 (6.5%) |
| | 4年以上 n=87 | 55 (63.3%) | 18 (20.7%) | 5 (5.7%) | 4 (4.6%) | 5 (5.7%) |
| あなたは初めて学生が陰部洗浄を実施した時、ミーティングにおいてとりあげる | 3年以下 n=31 | 0 (0.0%) | 1 (3.1%) | 10 (32.3%) | 10 (32.3%) | 10 (32.3%) |
| | 4年以上 n=87 | 3 (3.4%) | 10 (11.5%) | 24 (27.7%) | 25 (28.7%) | 25 (28.7%) |

以下と4年以上に回答傾向の違いはみられなかった。

「初回、学生は指導者の行う陰部洗浄を一部介助する」は、「いつもする」が3年以下は全くいなかったのに対して、4年以上には2割あり、経験が長いほうのみ「いつもする」者があった。

2回目以降も教員と実施するのは、3年以下も4年以上も「いつもする」と「たびたびする」を合わせると8割程度であった。また、スタッフ看護師と実施するのも3年以下も4年以上も「いつもする」と「たびたびする」を合わせると5割程度であった。

2回目以降、男女とも学生が一人で実施することは、3年以下も4年以上も「いつもする」と「たびたびする」を合わせても1割以下と少なかった。

「男性・女性患者の陰部洗浄は初めてかどうか確認する」は、「いつもする」が最も多く、「たびたびする」まで入れると約8割であった。また、3年以下は「いつもする」が5割に対し、4年以上の方が6割と多かった。

「初めての学生が陰部洗浄を実施した時、ミーティングにおいてとりあげている」は、3年以下においては「いつもする」は無く、「たびたびする」は1名(3.2%)のみであった。4年以上は「いつもする」が3名(3.4%)、「たびたびする」は10名(11.5%)であり、3年以下よりは多いものの、ミーティングで取り上げることは少なかった。ミーティングで取り上げている内容は、3年以下は「技術」が最も多く、次いで「患者の気持ち」、

「学生の気持ち」であった。4年以上は、「患者の気持ち」が最も多く、次いで「技術」、「学生の気持ち」であった。どちらの経験年数においても「学生の気持ち」が最も少なく、取り上げていたのは2割であった(表2)。

3) 陰部洗浄時の指導内容

教員の経験年数を3年以下と4年以上に分け、臨地実習における患者の注意をそらすような会話について「いつもする」「たびたびする」「時々する」「あまりしない」「ほとんどしない」の5段階で分析した。

「患者の注意をそらすような会話を意図的にしている」は、「いつもする」と「たびたびする」を合わせると、3年以下と4年以上共に5割程度であった。しかし、3年以下では「たびたびする」が最も多く4割、「いつもする」は1割弱であったのに対し、4年以上は「いつもする」が最も多く3割弱であった。

また、「会話の意図の説明は」「時々する」が最も多く、3年以下で4割、4年以上で3割であり、「いつもする」と「たびたびする」を合わせると、3年以下よりも4年以上が1割多かった。

学生が陰部洗浄実施中に男性患者が勃起した経験がない者が7割弱であった。そのため、経験年数では分析しないこととした。勃起時に交代をするが「いつもする」「たびたびする」を合わせて16名(13.3%)、勃起に対する技術的な指導は「いつもする」「たびたびする」を合わせて11名(9.2%)、勃起時の心理的フォローは「いつもする」「たびたびする」を合わせて21名(17.5%)であった(表4)。

勃起時の患者への心理的配慮として実施していることの記述は67名あり、そのうち経験がなかった17名を除いた50名を分析対象とした結果、103のデータが得られた。その内容は、①気をそらす(10)、②動揺を

表2 ミーティングの内容(複数回答)

| | 技術 | 患者の気持ち | 学生の気持ち |
|--------------|---------------|---------------|---------------|
| 3年以下 n=31 | 13 (41.9%) | 12 (38.7%) | 8 (25.8%) |
| 4年以上 n=87 | 34 (39.1%) | 47 (54.0%) | 21 (24.1%) |

表3 陰部洗浄時の指導内容

| | | いつもする | たびたびする | 時々する | あまりしない | ほとんどしない |
|---------------------------------------|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|--------------|
| 学生と陰部洗浄をする際、患者の注意をそらすような会話を意図的にしていますか | 3年以下 n=31 | 3 (9.7%) | 13 (41.8%) | 10 (32.3%) | 2 (6.5%) | 3 (9.7%) |
| | 4年以上 n=86 | 25 (29.1%) | 23 (26.7%) | 17 (19.8%) | 19 (22.1%) | 2 (2.3%) |
| 陰部洗浄実施時の患者の注意をそらすような会話の意図について説明していますか | 3年以下 n=31 | 4 (12.9%) | 4 (12.9%) | 13 (41.9%) | 6 (19.4%) | 4 (12.9%) |
| | 4年以上 n=86 | 15 (17.4%) | 15 (17.4%) | 26 (30.3%) | 22 (25.6%) | 8 (9.3%) |

表4 陰部洗浄で男性患者が勃起した場合の指導

| | いつもする | たびたびする | 時々する | あまりしない | ほとんどしない | 経験がない |
|----------------------|---------------|-------------|---------------|-------------|-------------|---------------|
| 交代する n=117 | 8 (6.8%) | 8 (6.8%) | 11 (9.4%) | 7 (5.9%) | 3 (2.5%) | 80 (68.4%) |
| 技術的な指導をする n=117 | 4 (3.4%) | 7 (6.0%) | 14 (12.0%) | 5 (4.3%) | 7 (6.0%) | 80 (68.4%) |
| 心理的なフォローをする n=116 | 15 (12.9%) | 6 (5.2%) | 11 (9.5%) | 2 (1.7%) | 3 (2.6%) | 79 (68.1%) |

見せない会話 (9)、③勃起にふれない会話 (6)、説明 (5)、緊張への声かけ (4)、謝罪 (3) といった【会話】が37であった。①短時間で終了 (19)、②勃起を助長しないための技術 (7)、③勃起したことを隠す (3)、④実施者の交代 (2) といった【技術】が31、①冷静な対応 (9)、②気づかないふり (6)、③職業的態度といった【態度】が18、【生理的反応としての対応】が13、【教育方法】が2であった (表5)。

表5 勃起時の患者への心理的配慮として実施していること

| | |
|--|---|
| <p>【会話】 37</p> <p>①気をそらす 10</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気をそらす ・可能性がある場合は音楽やラジオをかけたたり、意図的に気をそらせる会話をする ・気をそらせるような会話 ・相手に声をかけられそうな時は気をそらすような会話をします ・話題をかえて気をそらす ・会話をそらす ・話題をかえる (家族のことや旅行のことなど外に向ける) ・意図的に他の話をする ・集中させない ・コミュニケーションをはかりながら、患者様も自分自身で陰部ということを意識しない雰囲気作り <p>②動揺を見せない会話 9</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何気ない会話をしたりする ・あまり、ニコニコしすぎずさりげなく患者の顔を見て話をする ・動揺せず素早く平常の会話しながら実施 ・「もうじき終わりますね」と冷静に伝える ・学生は洗浄することに集中してしまっているため、患者と会話しながら実施する ・話題の選択 ・会話を考慮する ・患者への声かけ ・言葉がけ <p>③勃起にふれない会話 6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性があまりそのことに対して触れて欲しくない場合は触れない ・患者が気にしないようにさりげなく話をするなどその状態には触れない ・患者自身も意識していると思われるためあえてそのことにはふれず、ただ実務的に陰部洗浄を行うようにしている ・患者が気にしないよう、そのことに触れない ・会話でふれないようにする ・その点については触れない <p>④説明 5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清潔にする必要性がありますので納得していただけるように説明する ・説明をきちんと行う ・自然な反応だ、こちらの技術に問題があるなど、相手に意識させないような言葉を対象の年齢や状況に合わせて説明を加える ・あらかじめ“危ない”といってもらるように説明する ・させないように説明を十分行う <p>⑤緊張への声かけ 4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊張しないように話しかける ・患者さんの年齢などに応じて声かけるようにする ・緊張を取るように話題を持っていく ・緊張せずにごくくさいと伝えます <p>⑥謝罪 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ごめんなさいね」「恥ずかしい思いをさせて」と口に出している ・嫌な思いをさせて申し訳ないことを伝える ・患者に謝罪 | <p>【技術】 31</p> <p>①短時間で終了 19</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早く終わらせるようにする ・短時間で終了する ・手早く終る ・手早く終了する ・速やかに終わらせるようにする ・すばやく実施するようにする ・さりげなく早く終る ・さりげなく手早く終わらせる ・すぐに済ませることを伝える ・どうしても勃起してしまった時は、患者さんに対してその事にはふれずに手際よく終了する ・勃起していることに触れず、手早くケアを終る ・実施している手を止めることなく素早く終了するようにする ・相手の羞恥心に配慮し手早く行う (ほとんど経験がありません) ・動揺したりせず、冷静な態度でケアを素早く実施する ・手早くそれでいて爽快感が得られるよう ・施行中に起こってしまった場合は早めに終了する ・手際よくできるよう準備をしっかり確認する ・注意を別にそらすような会話、もしくは声かけをせず、速やかに終了する ・学生の動揺を助長しないよう、学生に具体的に指示を出し速やかに対応させる <p>②勃起を助長しないための技術 7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意識がそこに集中しないように手技・洗い方に注意する ・手技 ・触れ方の力加減 ・直接肌に触れない ・勃起しそうなになったら陰茎から手を離す ・把持の仕方や洗浄の仕方に注意する ・陰部にタオルをあてる等 <p>③勃起したことを隠す 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーの保護 ・声かけやカーテンなど環境でプライバシーを守るようにする ・タオルをかけ覆う <p>④実施者の交代 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性看護師と交代する ・無理にではなく同意が得にくい場合はスタッフへお願いする |
| | <p>【態度】 18</p> <p>①冷静な対応 9</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷静に対応する ・なるべくサラリと流す ・落ち着いた態度で接する ・何事もないように静かに落ち着いて行動する ・話しかけをいつも通り行い、何事もないかのように普通に接していく ・表情を変えず患者様の目にはいらないようにする ・てきぱきと態度を変えず ・さりげなく普通にするよう (変わらぬ態度) に努めている ・ぐずぐずした態度をとらない <p>②気づかないふり 6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気づかないよう配慮する ・対象にもよるが何事もなかったかのように振舞うことが多い ・気づかないふりをする ・気が付かないふりをする ・気づかないふり ・何事もなかったように振舞う <p>③職業的態度 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師である職業的立場に立ち、必要以上にそのことに触れず、平然と対応する ・患者様の気持ちを受け止める ・勃起させないために注意をそらすのではなく、どちらかという羞恥心や意識をそらすためと考えていた |

| |
|---|
| <p>【生理的反応としての対応】 13</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性であるため生理的な反応であることに対する肯定と共感 ・人間関係や年齢にもよる。肯定的に捉えることで恥をかかないようにしていた。 ・あまり経験はありませんが生理的なことなので、恥ずかしいことではないということは伝えます ・恥ずかしい事ではないので気楽に持ってください ・陰部の接触刺激による反応であったことを話す ・生理的現象として当然の事を伝える ・自然の成り立ちであることを伝える ・自然なことですからと済ませてしまう ・正常な体の変化であることをやわらかく伝える ・勃起している状態の対象に気持ちを察する言葉をかけるようにしている ・正直に状態について話をし、こういうこともあるという事を伝える ・事前に可能性としてありうることを説明し、生理的なことであることを援助する ・患者に「大丈夫ですから」と声をかける |
| <p>【教育方法】 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢的な心理的・社会的背景を理解し、患者自身がどう対応してほしいと思っているのかを考える ・講義中に話すことが多い |

勃起しないための技術指導の必要性があるは31名(28.2%)、ないが79名(71.8%)であった。

陰部洗浄実施時、勃起しないための技術指導の必要性を感じたことがあると答えた中で、その場面の記述があったのは23名であり、その内容は、【勃起を引き起こす洗浄手技】が8、【勃起による患者の反応に学生が対応しきれない】が6、【教員の経験】が5、【勃起に対する学生の困惑】が2、【勃起に気づけない】が2であった(表6)。

表6 勃起時の指導の必要性を感じた場面

| |
|---|
| <p>【勃起を引き起こす洗浄手技】 8</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手早く患者の陰洗が行えない学生も多いので、工夫が必要 ・実習中に女子学生の技術で患者様に反応が出た ・毎日、陰洗する患者さんが陰洗毎に勃起してしまった ・青年期～成人期の男性患者や病態上勃起してしまう患者に陰部洗浄を行った場面 ・70歳独居男性の陰洗を学生が行った際、勃起がみられた ・学生と一緒に陰部洗浄を行っていた ・実施中の勃起 ・そのような状態になった |
| <p>【勃起による患者の反応に学生が対応しきれない】 6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い患者で骨折だけで意識がはっきりとしており、患者がはずかしいという表情があるとき ・患者が申し訳ないといわれた時 ・若い(10～20代)の患者のとき ・青年期・成人期初期の対象にかかわる場面 ・患者が成人の場合 ・臨床実習で学生が男性患者を受持った場合 |
| <p>【教員の経験】 5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業等の検討時にその必要性を思う ・勃起の予防というよりプライバシー保護のために短時間で終える必要性はいつも感じている ・経験はないが有り得ることなので必要性あると思う ・学生の患者が勃起した経験はないが私自身が若い男性患者の勃起を経験をしたときに振り返ったとき |

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・臨床での経験上、学生には対応困難であると考えため、(学生と共に)具体的な場面の経験をしたことはない |
| <p>【勃起に対する学生の困惑】 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が戸惑っている場面 ・学生も、患者も会話が中断したり気まづくなり、その後の関わりがもちにくくなる可能性を感じる |
| <p>【勃起に気づけない】 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勃起をしても学生は洗浄することに必死で周りがまったく見えていないような場面 ・学生が洗浄に集中しすぎていると感じるとき |

勃起しないための指導内容を自由記述で求めたが、技術指導を必要とした時はほとんどが勃起した時であったため、表5・表6と同様の勃起した時の指導内容が記述されていた。新たに記述されていたのは、「手を止めてタオルをかぶせて、ほんのしばらく時間をおく」「大腿部内面を叩く」であった。

勃起時の心理的フォローの必要性がある33名(33.3%)、必要性がない66名(66.7%)であった。勃起時の心理的フォローの必要性があると答えた人の中でその場面について記述されていたのが、26名であった。その内容は【学生に戸惑いなど処理し切れない反応をみた】が12、【患者の年齢・性別】が3、【勃起したら】が2、【学生と患者との関係性】が1、【セクハラ】が1であった(表7)。

表7 勃起時の心理的フォローの必要性を感じた場面

| |
|--|
| <p>【学生に戸惑いなど処理し切れない反応をみた】 12</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が戸惑っている場面 ・学生が戸惑った様子を見せたとき ・戸惑ってしまったと報告を受けたとき ・対象に今後ケアするのが怖くなった場面 ・恥ずかしそうにしている時 ・自信をなくした場面 ・セクシャルな部分を強く感じて泣き出した場面 ・赤面し対応できず、手が出せない ・学生が陰部洗浄時勃起があり、ケアする手が止まったあと ・学生自身ショックではないか問題ないのか、話の中で確認 ・学生のそのときの反応などにより必要かどうかを判断 ・学生に心理的变化が生じたとき |
| <p>【患者の年齢・性別】 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者が学生に異性で、かつ年齢が若い場合 ・患者が成人の場合 ・70歳独居男性の陰洗を学生が行った際、勃起がみられた時 |
| <p>【勃起したら】 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて勃起をみた場合 ・陰部洗浄実施時の勃起 |
| <p>【学生と患者との関係性】 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象との関係性が崩れる(た)場合 |
| <p>【セクハラ】 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陰部洗浄ではなく清拭でしたが、セクハラ行為が発生した時にそう思いました |

心理的フォローの指導内容は、【患者の戸惑いなどを考えさせる】が4、【援助者の交代および同伴】が3、【看護師としての態度】が3、【生理的反応の説明】が3、【手技】が2、【学生の気持ちを出させる】が2であったが学生の気持ちに対する共感的な関わりはなかった(表8)。

表8 心理的フォローの指導内容

| |
|--|
| <p>【患者の戸惑いなどを考えさせる】 4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者も戸惑っている ・ 男性患者の立場になって考えてみるよう促す ・ その時の患者さんの気持ちをイメージさせる ・ 患者様はどう思っているのか |
| <p>【援助者の交代および同伴】 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員が代わったり、男性看護師に交代する ・ 同意を得る時、学生に対して恥ずかしい思いがあれば無理せずスタッフへお願いする ・ 一対一だと困るかもしれないのでともに援助に入る |
| <p>【看護師としての態度】 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生にはこちらの気構えがとても主要であることをフォロー ・ 看護者はそれ(勃起した患者の心理)へのフォローもしなければいけない ・ プライバシーの確保や援助時の態度について |
| <p>【生理的反応の説明】 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 男性にとって自然な現象 ・ 男性の正常な性器の反応 ・ 生理的に仕方のないメカニズム |
| <p>【手技】 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手際よく済ませる ・ 陰洗時の手技の振り返りを行う |
| <p>【学生の気持ちを出させる】 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の気持ちを聞く ・ 学生の気持ちを吐き出させて |

4) ポータブルトイレ

ポータブルトイレを使用した陰部洗浄の指導しているが63名(56.2%)、していない49名(43.8%)であった。3年以下では「している」18名(60.0%)、「していない」12名(40.0%)であった。4年以上では「している」45名(54.9%)、「していない」37名(45.1%)であり、経験年数での違いはみられなかった。

指導内容は50名が記述しており、その内容は、患者のセルフケア能力を最大限引き出すことを目的とした考え方の指導とポータブルトイレでの具体的な洗浄方法の指導が中心であり、セクシュアリティへの配慮に関するものはなかった。

5) 陰部洗浄の教育で大切にしていること

臨地実習において陰部洗浄の教育で大切にしていることは99名が記述しており、その内容は、【羞恥心やプライバシーへの配慮】が57名と半数以上であり、【清潔や感染予防】が31名で【学生の心理】は2名のみで「学生、患者、相互が嫌な思い」「患者と学生の心理面の配慮…」であった。

学生からの相談内容は【患者の個別性に合わせた方

法】が5、【基本手技】が5、【男性患者への方法】が4、【男子学生が女性の陰部洗浄を行う際の困惑】が3であった。(表9)。

表9 学生からの相談

| |
|---|
| <p>【患者の個別性に合わせた方法】 5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 陰部洗浄等患者の羞恥心が強いので、援助をどうしたらよいか ・ 勃起しないための対応 ・ 患者さんよりセクハラ言葉がでる ・ 患者の状況に応じた方法の検討について ・ 患者に適した方法での計画 |
| <p>【基本手技】 5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 洗浄綿について ・ 寝具をぬらしてしまう ・ どこに居たらよいか、(ポータブルトイレでの介助では)どこを介助すればよいか ・ 手袋のみで洗浄している。ガーゼを使っていない ・ 学内の方法と臨床での方法が違い質問を受けた。手袋を使用しているが、ガーゼは使用していない |
| <p>【男性患者への方法】 4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 女子学生が男性患者に実施する時の配慮、手技について ・ 成人期の男性を受け持った学生から相談を受けた ・ 若い患者に対する方法 ・ 男性の陰部洗浄が初めて |
| <p>【男子学生が女性の陰部洗浄を行う際の困惑】 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 男子学生が女性の老人へのオムツ交換と陰部洗浄に対して患者から拒否をされて困ったときカンファレンスでみんなで話し合い相談した ・ 男子学生が女性の陰部洗浄をする場合学生が抵抗を示すとき患者の気持ちを聞いて必要時女子学生や教員と交代する ・ 男子学生が女性の患者さんに技術を提供する場合男子学生への心理面について質問があった。男子学生本人の意向(成績がこれによって下がることはないという内容を説明し)を聞き患者の状態を話し合った上で再度指導者と調整したうえで実施した |

6) 教員間の話し合い

陰部洗浄についての教員間の話し合いは、教員間の話し合いが「ある」が54名(46.6%)、「ない」が62名(53.4%)で約半数が話し合っていた。その内容の記述は49名であり、【授業内容や授業方法】【臨地実習における問題】が多く、それ以外では【学生に対する配慮】として「学生が陰洗をすることに対して違和感を持っていることに対して、担当教員は学生の感覚がおかしいとのコメントをしたためそれはおかしなことではないと伝えながらセクシュアリティとの結びつきから話し合いをしたことがある。平気になることの怖さも話し合った」などがあった。

IV. 考察

陰部洗浄の実施の時期は1年次、領域では基礎看護学実習において多くの学校で計画されていたことから、セクシュアリティについての学習が行われる¹⁶⁾前であることが明らかとなった。

臨地実習における陰部洗浄の指導は、8割以上が、

初回は指導者の行う陰部洗浄を見学することがわかった。男性・女性の陰部洗浄の経験を確認している教員は8割に上っており、陰部洗浄を実施するにあたり、配慮が感じられた。指導者の経験別に分析したところ、「初回学生は指導者の行う陰部洗浄を一部介助する」や「意図的な会話」が3年以下の教員（一人前教員）よりも4年以上の教員（以下中堅教員とする）に「いつもする」が多い結果から、ベテランになるほど陰部洗浄時、患者に心理的な配慮を確実にできる人が育つことが示された。しかし、その会話の意図を学生に説明することについては、経験年数の差は見られず、共に低いことから、教育内容としては確立していないといえる。

ほとんどの教員は、男女の陰部洗浄の経験があったが、臨地実習において学生と共に陰部洗浄を実施した際に、約7割の教員に患者が勃起した経験がなかったことがわかった。また、7割の教員は勃起しないための技術指導の必要性を感じていないことから、体験が無いことがこの要因の1つであると推測される。

臨地実習において陰部洗浄の教育で大切にしていることは、患者の羞恥心やプライバシーへの配慮や清潔や感染予防が中心であり、学生の心理への配慮はほとんどなかった。初めての陰部洗浄をミーティングでとりあげても学生の気持ちについては少なく、あくまでも患者中心の指導となっていることが窺える。

さらに、勃起時の心理的フォローについては、3割弱の教員が必要であると答えており、必要性を感じた場面は、勃起に対して学生が戸惑っていると教員が感じた場合や勃起という現象が起きた場合であった。学生からの相談もあったが、心理的フォローの内容は患者理解の立場に立った指導であり、学生の気持ちに対する共感的な関わりはみられなかった。これらの結果から、学生は陰部洗浄時に沸き起こる感情を封印せざるを得なくなる構造が垣間見えた¹⁷⁾。

陰部洗浄についての教員間の話し合いは、約半数で行われていたものの、授業内容や授業方法、臨地実習における問題が多く、学生に対する配慮は少なかった。しかし、学生に対する配慮の中には「学生が陰洗をすることに対して違和感を持っていることに対して、担当教員は学生の感覚がおかしいとのコメントをしたためそれはおかしいことではないと伝えながらセクシュアリティとの結びつきから話し合いをしたことがある。平気になることの怖さも話し合った」というような学生の気持ちを尊重する内容もあった。これは、陰部洗浄の教育の中で患者のセクシュアリティだけでなく、学生のセクシュアリティも重視した教育といえよう。今後、このような教育が広がっていくことが望まれる。

V. おわりに

今回の調査によって、以下のことが明らかになった。

1. 臨地実習においては、初めての陰部洗浄かどうかの確認と初回は見学をする学校がほとんどであった。
2. ほとんどの教員は、男女の陰部洗浄の経験があったが、臨地実習において学生と共に陰部洗浄を実施した際に、約7割の教員に患者が勃起した経験がなかった。
3. 「初回、学生は指導者の行う陰部洗浄を一部介助する」は、「いつもする」が教員経験3年以下は全く無かったのに対して、教員経験4年以上は2割あり、経験による差が見られた。
4. 勃起時の心理的フォローについては、3割弱の教員が必要であると答えており、学生の戸惑いに気づいていたが、指導内容は患者理解の立場に立った指導に留まり、学生の気持ちに対する共感的な関わりには至っていなかった。

謝辞

本研究に快く協力いただいた日本看護学校協議会に所属する養成所の先生方に深く感謝いたします。

本研究は、日本看護学校協議会の研究助成金による支援を受けました。記して感謝いたします。

引用文献

- 1) 水野昌子, 福田博美: 看護基礎教育における性に関する学習 男性患者の陰部洗浄に関する指導方法の検討, 愛知教育大学研究報告, 56 (教育科学編), 53-58, 2007
- 2) 志井岐康子, 松尾ミヨ子ほか編: ナーシング・グラフィカ18 基礎看護学基礎看護技術, メディカ出版, 第2版2刷, 2008
- 3) 深井喜代子編: 新体系看護学全書12基礎看護学3基礎看護技術II, メヂカルフレンド社, 第1版3刷, 2008
- 4) 坪井良子, 松田たみ子編: 考える基礎看護技術II看護技術の実践, ヌーヴェルヒロカワ, 第2版4刷, 2008
- 5) 石井範子, 安部テル子編: イラストでわかる基礎看護技術, 日本看護協会出版会, 第1版第5刷, 2008
- 6) 氏家幸子, 阿層洋子ほか: 基礎看護技術1, 医学書院, 第6版2刷, 2006
- 7) 藤崎郁ほか編: 系統看護学講座専門3基礎看護技術II基礎看護学 [3], 医学書院, 第14版5刷, 2008
- 8) 三上れつ, 小松万喜子編: 演習・実習に役立つ基礎看護技術 根拠に基づいた実践をめざして, ヌーヴェルヒロカワ, 第3版1刷, 2008
- 9) 小島照子, 藤原奈佳子編: 看護系標準教科書 基礎看護学技術編, Ohmsha, 第1版, 2007
- 10) 太陽好子, 菊井和子編: 新基礎看護学, ふくろう出版, 第2版, 2006
- 11) 杉野佳江編: 基礎看護学2基礎看護技術, 金原出版, 第5版, 2003
- 12) 深井喜代子, 前田ひとみ編: 基礎看護学テキストEBN志向

- の看護実践 Evidence Based Nursing, 南江堂, 2006
- 13) 水野昌子, 福田博美他, 看護基礎教育課程におけるセクシュアリティに関する教育の検討第3報 看護師からの情報の分析, 母性衛生, 47 (3), 201.
 - 14) 水野昌子, 福田博美: 看護基礎教育における性に関する学習 男性患者の陰部洗浄に関する指導方法の検討, 愛知教育大学研究報告, 56 (教育科学編), 53-58, 2007
 - 15) パトリシアベナー, 井部俊子他訳, ベナー看護論 達人ナースの卓越性とパワー, 医学書院, 2001, 15-25.
 - 16) 水野昌子, 福田博美, 看護基礎教育課程におけるセクシュアリティに関する教育の検討-シラバスの分析, 母性衛生, 2009, 49 (4), 612-619.
 - 17) 水野昌子, 福田博美, 男性患者の陰部洗浄におけるセクシュアリティに関する教育の現状と課題, 看護教育, 2010, 51 (2), 134-139.

(2011年9月16日受理)